

- 目的：** 令和6年度「全国学生調査（第4回試行実施）」の実施に向けて、大学独自の学生調査において全国学生調査の質問項目を追加する新たな調査方法（調査方法②）及び情報公表や教学IRなど調査結果の活用方策について改善を図る。
- 調査時期：** 令和6年3月19日（火）～令和6年4月11日（木）
- 対象校：** 前回アンケート調査において、調査実施方法を文部科学省が実施するインターネット調査（調査方法①）と回答した547校
- 質問項目：**
1. 「全国学生調査」の質問項目と類似する大学独自の学生調査の有無
 2. 大学独自の学生調査の回答率
 3. 調査方法②（大学独自の学生調査に全国学生調査の質問項目を追加）を実施する上での課題
 4. 調査方法②を実施する上での各課題に係る具体的な内容・要望（主なもの）
 5. 大学独自の学生調査結果の公表
 6. 全国学生調査の自大学結果を、大学のホームページ等で自主的に情報公表を行うことに関する課題
 7. 全国学生調査の自大学結果を、学内のIRやFD・SD活動、自己点検・評価において活用することに関する課題

<全体の回答状況>

区分	回答校数	回答率
大学 (442校)	343校	77.6%
短期大学 (105校)	67校	63.8%
合計 (547校)	410校	75.0%

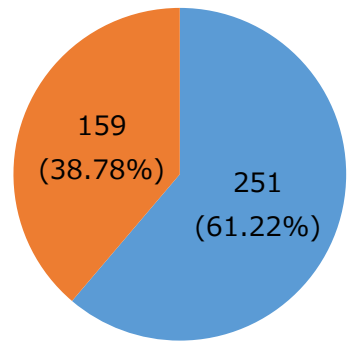
<設置者別の回答状況>

区分	回答校数	回答率
国立 (63校)	59校	93.7%
公立 (66校)	44校	66.7%
私立 (418校)	307校	73.4%

※同一大学・短期大学から複数回答があったものは、回答日時が最新のものを集計。

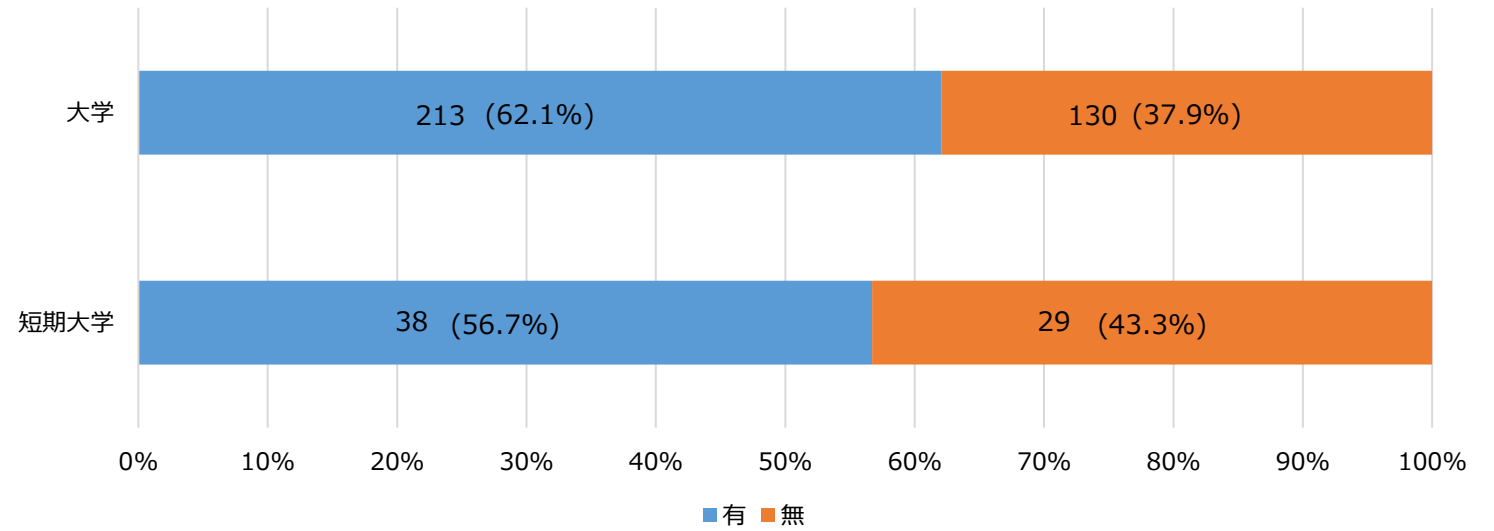
1. 「全国学生調査」の質問項目と類似する大学独自の学生調査の有無

独自調査の有無（総計）

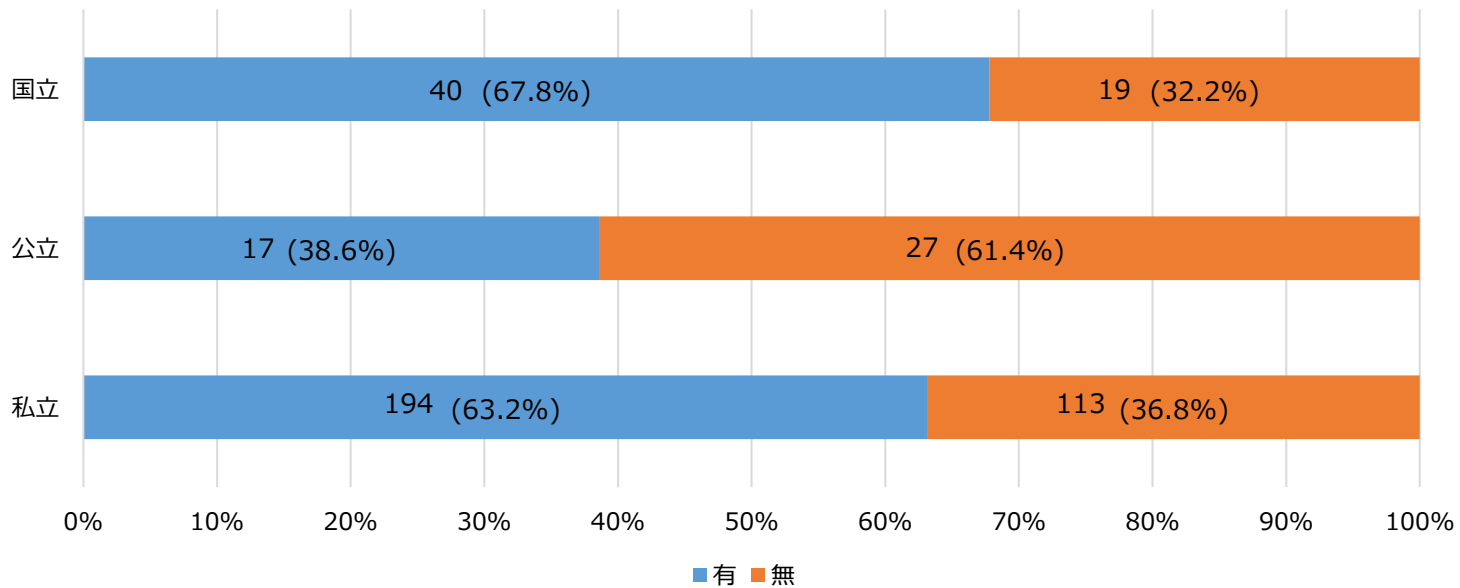


■有 ■無 ※百分率の母数は回答校数(410校)

独自調査の有無（大学・短大）

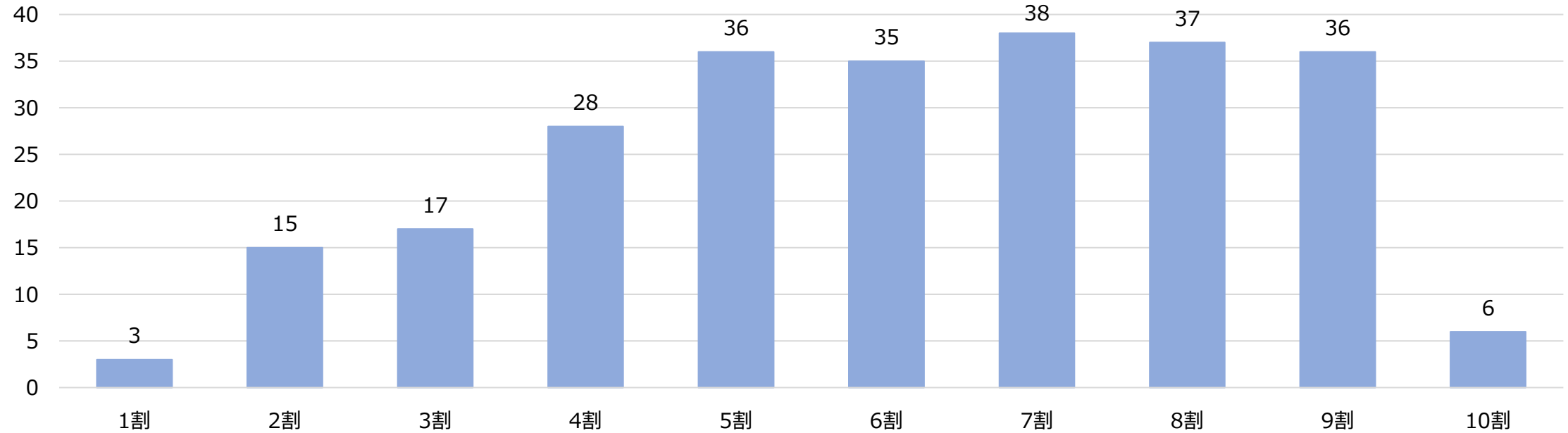


独自調査の有無（国公私別）



2. 大学独自の学生調査の回答率

独自調査の回答率（全体） 対象：251校



独自調査の回答率平均値（参考）

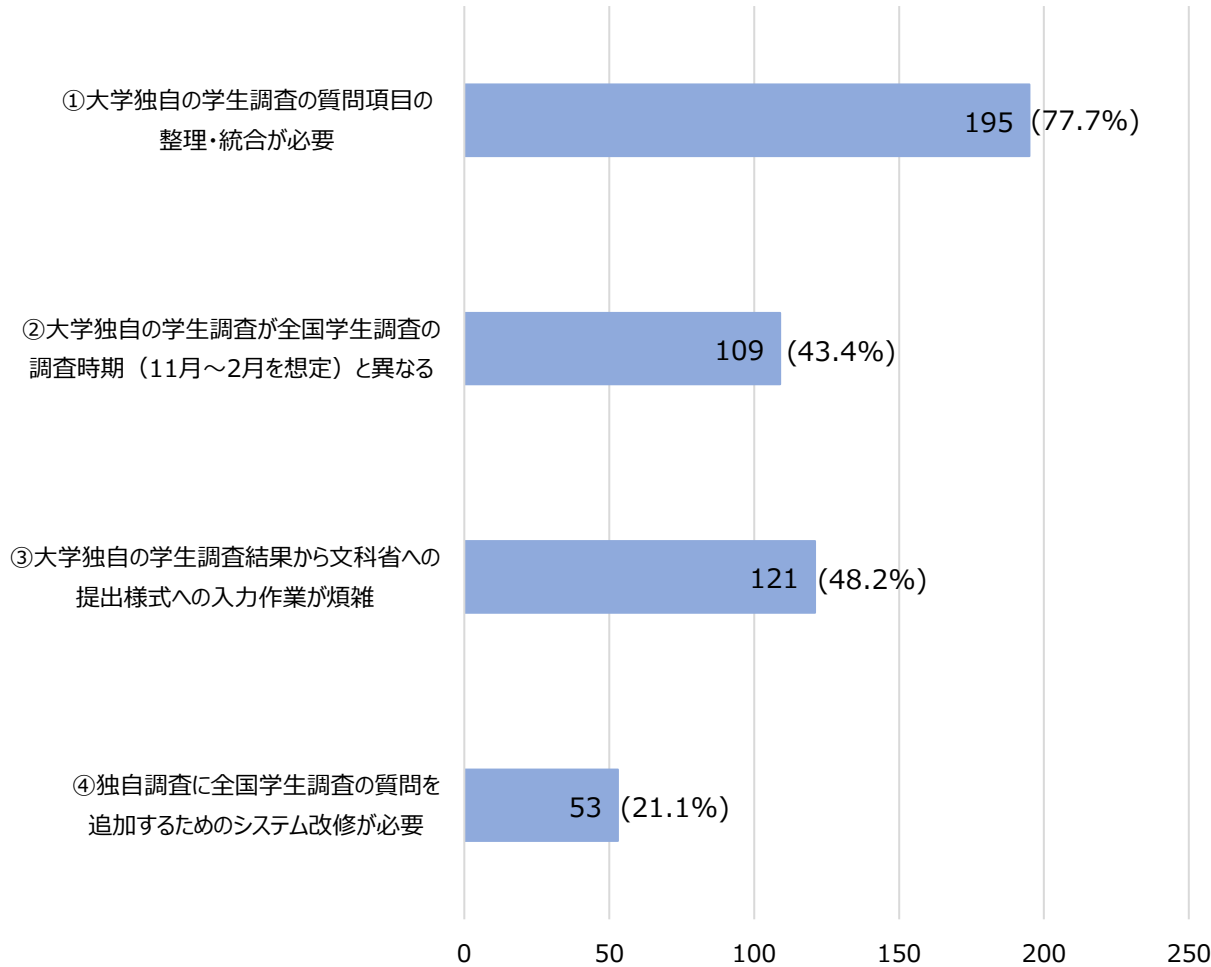
全体： 6.10割

大学： 6.10割 / 短大：6.08割

国立： 6.30割 / 公立：5.59割 / 私立：6.10割

3. 調査方法②（大学独自の学生調査に全国学生調査の質問項目を追加）を実施する上での課題

調査方法②の課題（全体）



※百分率の母数は独自調査を実施している校数(251校)

調査方法②の課題（大学・短大）

課題	大学	短期大学
①大学独自の学生調査の質問項目の整理・統合が必要	167 (78.40%)	28 (73.68%)
②大学独自の学生調査が全国学生調査の調査時期（11月～2月を想定）と異なる	98 (46.01%)	11 (28.95%)
③大学独自の学生調査結果から文科省への提出様式（※）への入力作業が煩雑	105 (49.30%)	16 (42.11%)
④独自調査に全国学生調査の質問を追加するためのシステム改修が必要	46 (21.60%)	7 (18.42%)

※百分率の母数は独自調査を実施している校数(大学：213校、短期大学：38校)

調査方法②の課題（国公私別）

課題	国立	公立	私立
①大学独自の学生調査の質問項目の整理・統合が必要	34 (85.00%)	14 (82.35%)	147 (75.77%)
②大学独自の学生調査が全国学生調査の調査時期（11月～2月を想定）と異なる	17 (42.50%)	7 (41.18%)	85 (43.81%)
③大学独自の学生調査結果から文科省への提出様式（※）への入力作業が煩雑	26 (65.00%)	11 (64.71%)	84 (43.30%)
④独自調査に全国学生調査の質問を追加するためのシステム改修が必要	10 (25.00%)	5 (29.41%)	38 (19.59%)

※百分率の母数は独自調査を実施している校数(国立：40校、公立：17校、私立：194校)

4. 調査方法②を実施する上での各課題に係る具体的な内容・要望（主なもの）

課題①「大学独自の学生調査の質問項目の整理・統合が必要」

【大学独自の学生調査の目的等と一致しない】

- 全国学生調査の質問項目と類似する学生調査を複数実施しており、それぞれ目的、設計、実施時期、種類、項目、選択肢等が異なる。
- 大学独自調査と一部質問内容が重複しているものの、大学が調査したい内容と異なる部分もある。
- 目的が異なる2つの調査を統合することについて、学内での合意形成が困難な見通し。
- 大学独自調査は記名式であり、無記名式の全国学生調査と性質が異なる。

【調整コスト・時間がかかる】

- 大学独自調査の実施部署が複数あり、質問項目の整理・統合の検討や学内調整に時間を要する。
- 全国66大学が加盟の大学IRコンソーシアムの学生調査の質問項目の整理・統合が必要。
- 全国学生調査の質問項目が変更になることも考えられ、その都度、対応が必要となり負担が増加する。
- 整理・統合には設問項目を含め内容について実施年度の4月に検討を開始するので、遅くとも実施の前年度に依頼をされると検討できる。

【経年比較等ができなくなる】

- 経年比較や自己点検・評価に活用しているため、大学独自調査の質問項目を変更することは望ましくない。
- 経年で回答結果を収集・分析しているため、一度決めた全国学生調査の設問は数年間は固定にすることを要望。

【全体として質問数が多くなる】

- 大学独自調査の質問数が多いため、全国学生調査の質問項目を追加することは難しい。
- かなり質問数を絞って高回答率を引き出しているので、全国学生調査の質問項目が増えることにより回答率が下がることが心配。
- アンケート回答率が向上しない可能性があるため、項目の精査が必要であると考え
- 全国学生調査の類似する質問項目を、大学独自調査の質問項目で代用できるようにしてほしい。

4. 調査方法②を実施する上での各課題に係る具体的な内容・要望（主なもの）

課題②「大学独自の学生調査が全国学生調査の調査時期（11月～2月を想定）と異なる」

- 大学独自は夏頃に全学年を対象に実施している。
- 卒業生のアンケートに追加するのであれば、3月まで実施してほしい。
- 想定されている調査時期（11月～2月）は期末試験に差し掛かるタイミングであり、かつ4年生においては卒業研究で多忙な時期と重なるため、回答率が期待できない。
- 医療系学部は、最終学年は11月以降になると国家試験等で煩忙であり、実施タイミングとして適さないため、春～夏の実施を希望。
- 学年によって調査時期が異なり、実施時期は年度内など、柔軟に対応していただきたい。
- 1年を通して大学ごとに好きな実施時期を選べるようにしていただけると調整がしやすい。

課題③「大学独自の学生調査結果から文科省への提出様式への入力作業が煩雑」

- 文科省提出様式に整えるためには、学年の指定や、全国学生調査の調査項目の抽出など一定の作業は必要になる。
- 大学のシステムを利用して調査を実施しているため、全国学生調査の質問項目のみの抽出や転記作業が煩雑。
- 設問が増となった場合、データ量が膨大となりデータの整理が煩雑となる。
- 大学独自調査の集計があり、二重作業になる。担当職員の負担が増加する。
- 調査対象年次が異なり、年次の切り分けが必要なため、様式入力の手入力となる。
- 大学・学部・学科名が記載された比較データが公開されないにも関わらず、作業を行う意義を見出せない。
- 大学独自調査の結果をそのまま提出できるようにしてほしい。
- エクセルを取り込み、文科省の様式に自動転記できるなどの手段を構築してほしい。

4. 調査方法②を実施する上での各課題に係る具体的な内容・要望（主なもの）

課題④「独自調査に全国学生調査の質問を追加するためのシステム改修が必要」

- システム改修が必要になった場合、予算の確保が必要な可能性があるが、確実に予算を確保できる保証がない。
- 学外業者に発注して作成したシステムのため、費用面の問題もあり容易に変更できない。
- 外部業者へ委託しているため、短期間での仕様変更は難しい。
- 大学独自の調査・アンケートシステムでは、質問項目の分岐や制御（学年に応じた表示項目）ができない。
- 質問項目の整理・統合やシステム改修等を行う人員・時間を捻出することが難しい。

その他

【毎年度の実施／質問項目の固定化】

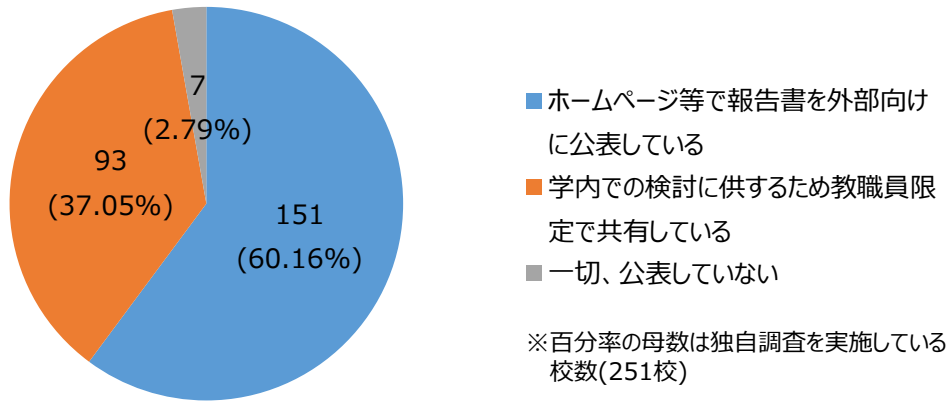
- 本調査が毎年・永続的に実施されるのであれば、質問項目の整理統合をする価値があると思うが、今のような単発な調査であれば、本学独自調査と平行のままで行う可能性がある。
- 大学独自の学生調査は毎年実施しているので、全国学生調査を実施する年と実施しない年で毎年質問項目の整理・統合が必要となり事務作業が増える。
- 全国学生調査は不定期での試行実施が続いているため、安定した実施間隔や経年比較可能な程度に固定化された設問項目による本格的な実施の早期実現を望んでいる。
- 本格実施までに設問が変わるかもしれないものに、学内の調査項目を合わせる（整理統合する）わけにはいかない。

【学生調査の統合による効率化】

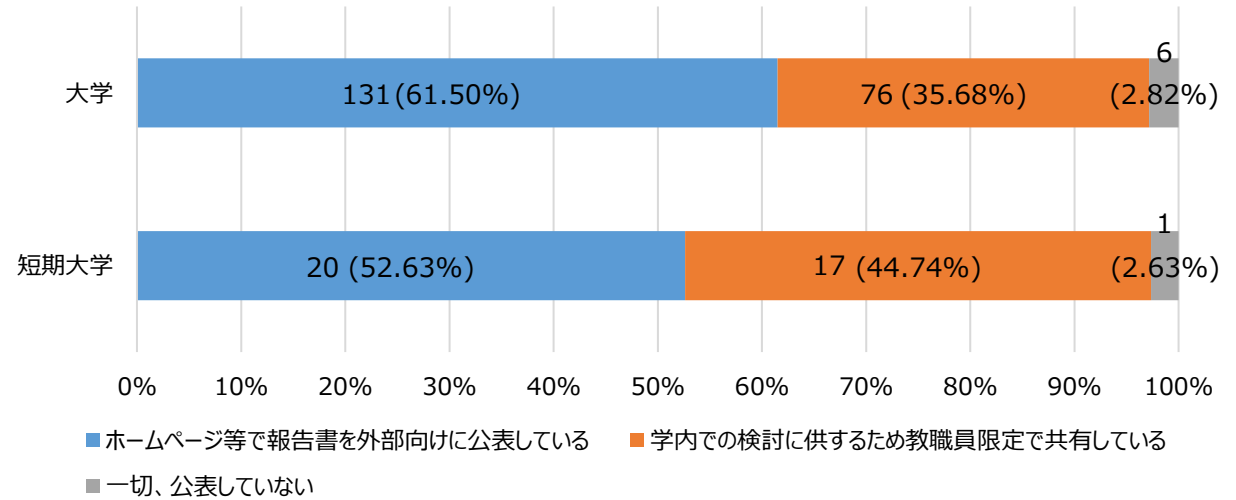
- 学生の負担による回答への影響や全国との比較が可能であることなどを鑑みて、本学では独自に行っている在学生対象のアンケートを全国学生調査へ置き換えることを視野に入れている。
- 全国学生調査で本学独自の学生調査のアンケート項目を網羅できることから、全国学生調査が本格実施される場合は、本学独自調査を実施しないことを想定。

5. 大学独自の学生調査結果の公表状況

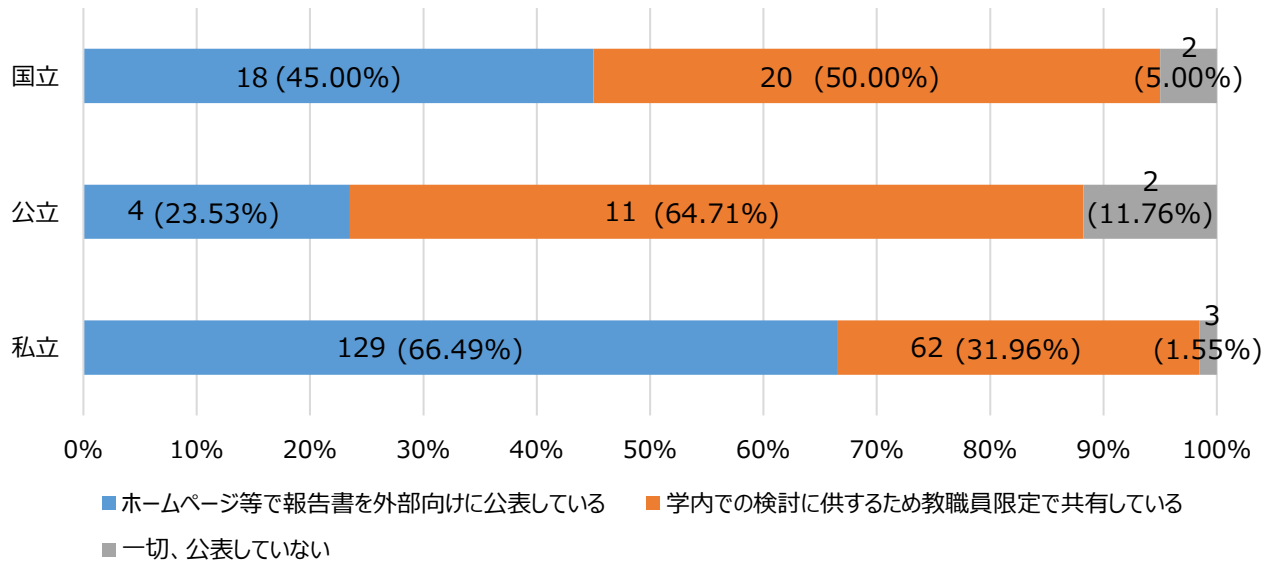
独自調査結果の公表（総計） 対象：251校



独自調査結果の公表（大学・短大）

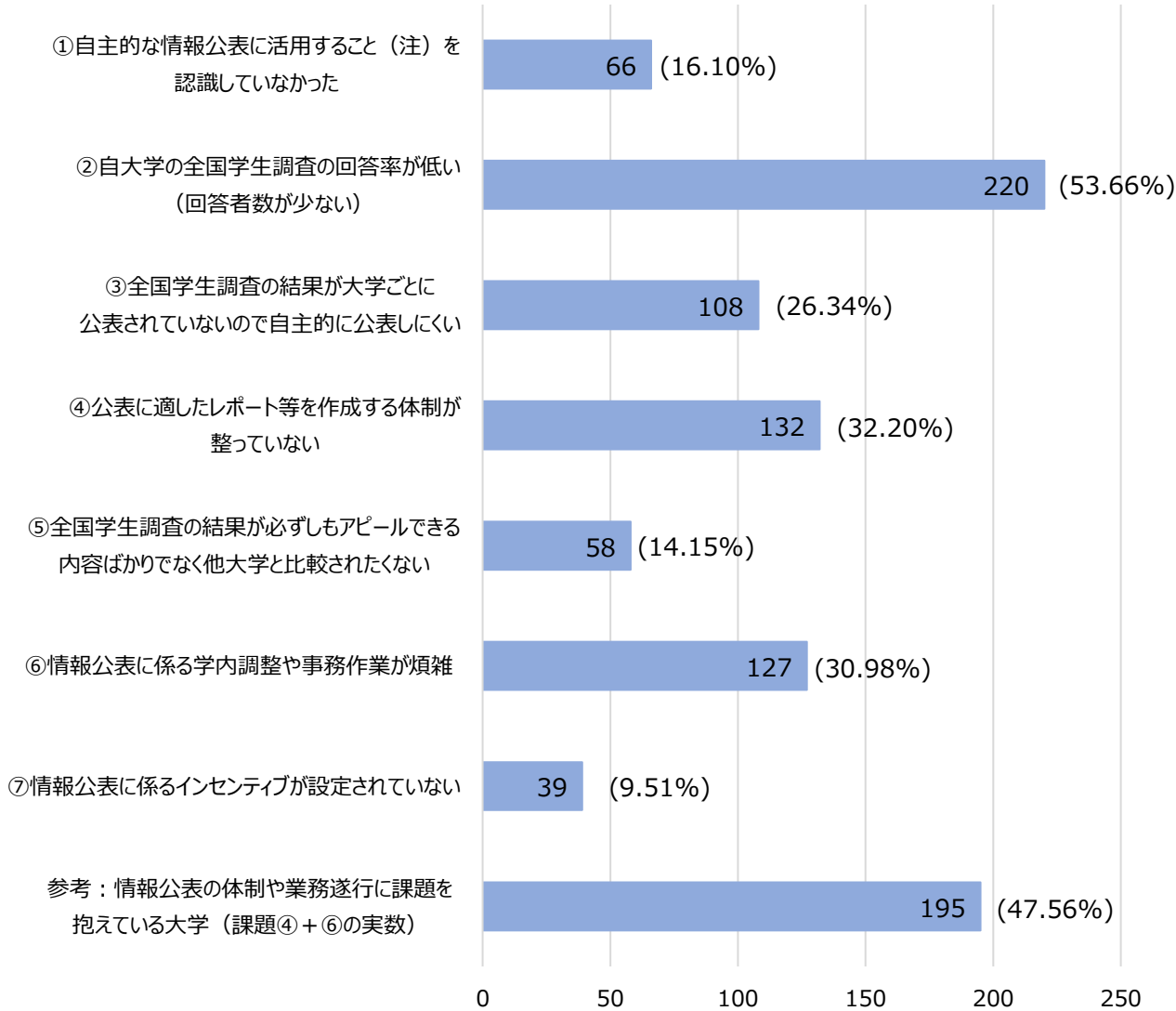


独自調査結果の公表（国公私別）



6. 全国学生調査の自大学結果を、大学のホームページ等で自主的に情報公表を行うことに関する課題

情報公開の課題（全体）



注：全国学生調査（第3回試行実施）の実施概要では、「自大学の調査結果について、学内において共有を図るとともに、IRやFD・SD活動、自己点検・評価における活用や、他大学等との情報共有、学生・社会への自主的な情報公表に活用することにより、自大学の教育改善を促進させるよう努めるものとする。」としている。

※百分率の母数は回答校数(410校)

情報公開の課題（大学・短大）

課題	大学		短期大学	
課題①	49	(14.29%)	17	(25.37%)
課題②	192	(55.98%)	28	(41.79%)
課題③	95	(27.70%)	13	(19.40%)
課題④	108	(31.49%)	24	(35.82%)
課題⑤	49	(14.29%)	9	(13.43%)
課題⑥	107	(31.20%)	20	(29.85%)
課題⑦	34	(9.91%)	5	(7.46%)
参考：情報公表の体制や業務遂行に課題を抱えている大学（課題④+⑥の実数）	162	(47.23%)	33	(49.25%)

※百分率の母数は回答校数(大学：343校、短期大学：67校)

情報公開の課題（国公立別）

課題	国立		公立		私立	
課題①	4	(6.78%)	12	(27.27%)	50	(16.29%)
課題②	36	(61.02%)	17	(38.64%)	167	(54.40%)
課題③	19	(32.20%)	12	(27.27%)	77	(25.08%)
課題④	21	(35.59%)	14	(31.82%)	97	(31.60%)
課題⑤	8	(13.56%)	2	(4.55%)	48	(15.64%)
課題⑥	16	(27.12%)	12	(27.27%)	99	(32.25%)
課題⑦	6	(10.17%)	3	(6.82%)	30	(9.77%)
参考：情報公表の体制や業務遂行に課題を抱えている大学（課題④+⑥の実数）	29	(49.15%)	21	(47.73%)	145	(47.23%)

※百分率の母数は回答校数(国立：59校、公立44校、私立307校)

6. 全国学生調査の自大学結果を、大学のホームページ等で自主的に情報公表を行うことに関する課題（自由記述抜粋）

【大学独自の学生調査結果の情報公表との調整】

- 大学独自の調査の結果を公表しており、その中に全国学生調査の質問の一部が含まれている。
- 既に独自調査の結果を公表しているため、同じような調査結果を公表する必要性がない。

【文部科学省主導による情報公表】

- 各大学が独自に公表する方法では、大学により公表項目や公表単位（大学単位、学部単位など）が異なり、大学間の比較がしにくい。
また、公表する場所も、各大学のHPでは検索の手間がかかる。公表方法、公表項目、公表単位などを文部科学省で検討いただき、各大学に提示していただきたい。
- 教育改善の促進に努めるが、結果であれば各大学のHP上ではなく、調査機関がまとめて公表する方が有用に活用できる。

【情報公表が前提でない】

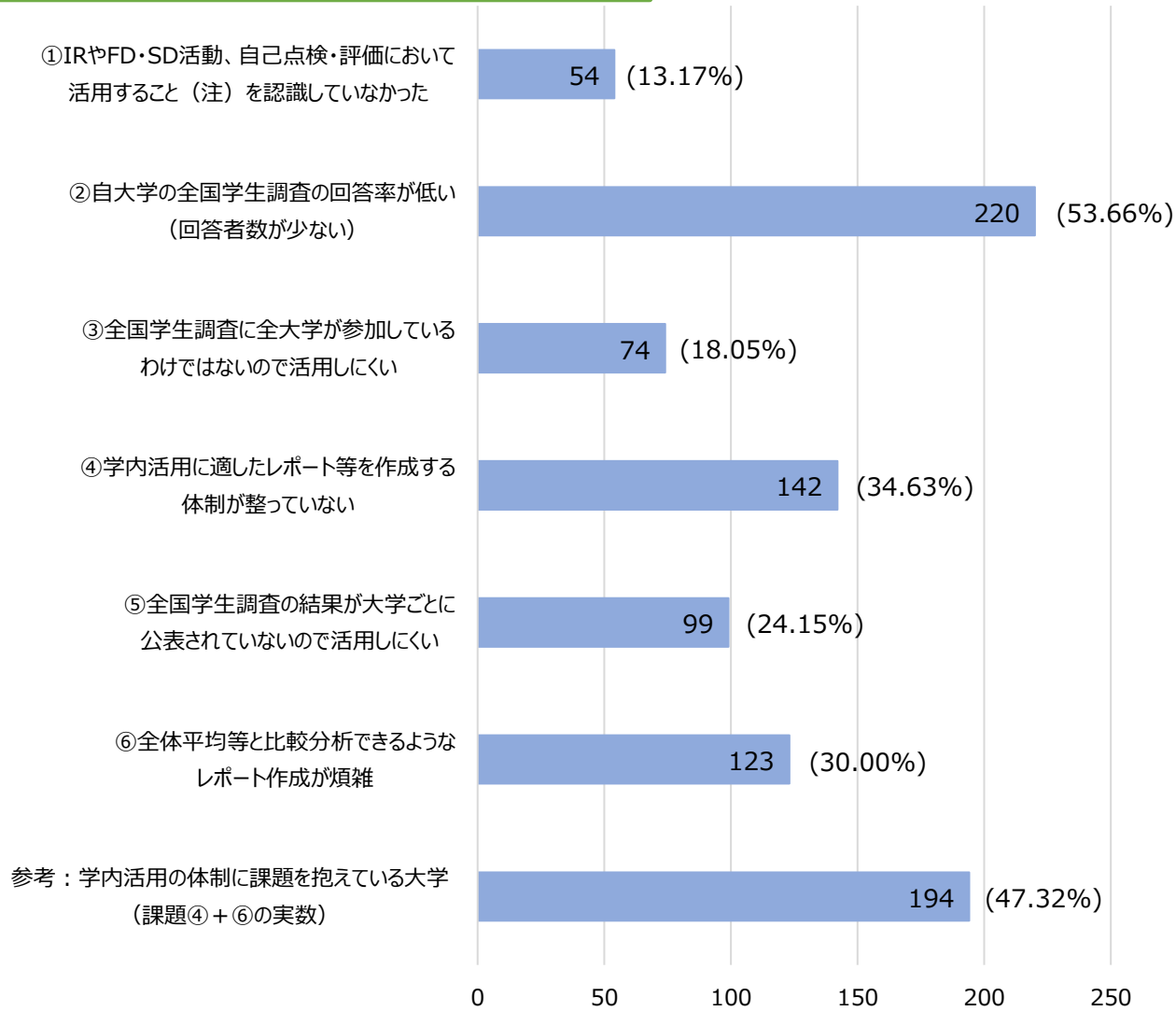
- 自学の改善等のために実施しており、公開する必要性を感じない。
- 外部には公表しない事を学生へ周知したうえで調査に協力もらっている。

【調査結果の信頼性】

- 一部の学年を対象とした匿名化された統計情報では、本学のカリキュラム全体を踏まえた学修成果・教育効果の指標としては不十分。
- 匿名なので信頼性がない。

7. 全国学生調査の自大学結果を、学内のIRやFD・SD活動、自己点検・評価において活用することに関する課題

IR等、学内活用の課題（全体）



注：全国学生調査（第3回試行実施）の実施概要では、「自大学の調査結果について、学内において共有を図るとともに、IRやFD・SD活動、自己点検・評価における活用や、他大学等との情報共有、学生・社会への自主的な情報公表に活用することにより、自大学の教育改善を促進させるよう努めるものとする。」としている。

※百分率の母数は回答校数(410校)

IR等、学内活用の課題（大学・短大）

課題	大学		短期大学	
課題①	41	(11.95%)	13	(19.40%)
課題②	193	(56.27%)	27	(40.30%)
課題③	64	(18.66%)	10	(14.93%)
課題④	117	(34.11%)	25	(37.31%)
課題⑤	86	(25.07%)	13	(19.40%)
課題⑥	104	(30.32%)	19	(28.36%)
参考：学内活用の体制や業務遂行に課題を抱えている大学（課題④+⑥の実数）	161	(46.94%)	33	(49.25%)

※百分率の母数は回答校数(大学：343校、短期大学：67校)

IR等、学内活用の課題（国公私別）

課題	国立		公立		私立	
課題①	2	(3.39%)	13	(29.55%)	39	(12.70%)
課題②	37	(62.71%)	17	(38.64%)	166	(54.07%)
課題③	7	(11.86%)	4	(9.09%)	63	(20.52%)
課題④	18	(30.51%)	13	(29.55%)	111	(36.16%)
課題⑤	17	(28.81%)	11	(25.00%)	71	(23.13%)
課題⑥	19	(32.20%)	8	(18.18%)	96	(31.27%)
参考：学内活用の体制や業務遂行に課題を抱えている大学（課題④+⑥の実数）	27	(45.76%)	17	(38.64%)	150	(48.86%)

※百分率の母数は回答校数(国立：59校、公立44校、私立307校)

7. 全国学生調査の自大学結果を、学内のIRやFD・SD活動、自己点検・評価において活用することに関する課題（自由記述抜粋）

【大学独自の学生調査結果の活用との調整】

- 既に本学独自の学生調査結果をIRやFD・SD活動、自己点検・評価に活用している。同様の調査結果を分析する必要性がない。
- 本学独自調査の設問・回答を過去（複数年）と比較して実施している。
- 本学が行う改善の調査と合わせて優先順位を考え、現状必要な課題から取組を行っている。
- 自大学の自己点検評価として活用できるアンケート項目ではない。調査項目・選択肢の検討・調整が必要。
- 既存の独自調査、授業評価や学内委員会との調整が必要になる。

【集計結果の提供内容】

- 結果はローデータだけではなく、全体の結果と自大学の結果が比較できる形でいただきたい。
- 集計結果が学部単位であり、学科単位でない。
- 文部科学省から提供される全国学生調査のデータの形式が使いづらい。分析・活用に必要な情報が不足している。
- 同じ学部系統・地域の大学と比較するデータがあれば活用が進むのではないか。
- 学部間比較ができない場合、学部レベルのFDに繋げにくい。

【調査結果の信頼性】

- 試行実施段階の結果を大学の教育改善促進の材料とすることに抵抗を感じる。
- 匿名なのでデータの信頼性が担保されていない。他のデータとのクロス集計ができない。
- 回答率が低いため、大学間比較に値するのか、これに対する統計的な説明が専従の職員では難しい。